

文苑

俳句

五月會

よいのですから呉々もおたのみ致します。

會員より會員へ 會員より本會又は會員へ陳べられた希望を一括して御報告致します。

代議員の選出レシオは養蠶製絲紡績各科を通じて選出し相成る可くは相當卒業年次をも加味されたきこと書籍雜誌の交換欄を設けては如何、もつと數種の交換迄及ぼしては如何と！之は本會も非常に賛成ですから交換したいもの譲りたいたいもの譲り受けたいものを御通知下さいませんか雜誌の上でよければ雜誌でもつと手近かに運ぶことでありましたら如何様にも御便誼を運びます。

會員の訃報通知 會員の訃にも書いた通り其の御病氣や前後の事情を報告して會員全体で故人を偲びたいと思ひます近所で事情を知られた方だけ可成く早く御通知を願ひます。

昇位昇格通知 官報等に顯はれる程度のもは其の方面から調査することも出来ませんが世間に發表されない會員の昇格は御通知の無い以上知りやうが無いのであります例へば工場會社私設國体判任官等の各位であります、之は單に茲に發表して會員一同で喜びを分つのみ必要でなく就職問題等に關聯して本會では是非承知しなければ都合が悪いことであります自分の昇格を矜誇すると云ふ意味で無しに義務として御通知を願ひます。

スキー追儼

スキー了へて灯る温泉町の賑へり
スキー衆がはやし居る丘日ざし來し
燦る茶屋スキー歸りが話し居る
見もはるか雪と空なるスキー場
豆撒や偶ひやく芽の絲
髪とけば追儼の豆のこぼれけり
追儼して鬼いぬと子に語りけり
露の臺、初午
温泉尻落つる澤のほとりや露の臺
廢道の崩れし儘や露の臺
新驛の消鎖まらす露の臺

呵 靜
清 旭
有 年
祈 堂
呵 靜
祈 堂
清 旭
中 里
奴 陶 太
呵 靜

辨負ふ媼かゝむやぶきの露
鶏群れてあさる日向や露の葦

森途を雪田渡るや一の午

初午や泣く兒もありて賑かな

初午や杉苗植ゑし稻荷道

春雨、卒業式

窓灯る柳小路や春の雨

春雨や繪看板に立つ蛭の目傘

うたゝねを子に起されぬ春の雨

春雨の庭にころげし手毬哉

卒業に記念樹植ゑてありにけり

皆がだまつて咳たまさかや卒業式

柳、入學

圓窓に月影淡き柳かな

連山の躑の雪や川柳

小鳥籠下げし軒端や柳揺る

橋見えて柳のむらや水長し

雨けぶる柳の中の灯の青み

門燈や芽棚に雨よせて來る

行きずりの挨拶親し入學日

入學の袴着し兒を見直しぬ

花、摘草

寶塔の浮び出でたり花の雲

無庵

一峯

呵靜

祐堂

眠鷗

松城

麗の舎

有年

眠鷗

有年

同人

松城

無庵

眠鷗

中里

祐堂

清旭

有年

同人

祐堂

圓の上に銅像立てり花吹雪
雪と散る櫻の下に團子店

咲くもよし散るも風情の櫻哉

花の夜の更けて小寒し酒の酔

針に倦み暫し野に出て摘草す

鯉幟、鬨

丸屋根起伏の中や鯉幟

矢車のしはし風きけり鯉幟

神田川岸舟住居にも鯉幟

鯉幟風の夕月呑まんとす

閑しかちに鯉幟ふなり田舎茶屋

座して喰ふ鬨は人を動かせり

晝炊き背なの鬨を言はれけり

巖、更衣

早巖を米と替へ行く媼あり

つゝじ襪せて巖は拳ひろけたり

里山の巖は瘦せて木立なる

更衣鏡の前の姉が太り

湯上りの氣輕き語る更衣

揚げ二寸おろしてやりぬ更衣

○鬨 菫集

桑籠に野菊からみて運ばれし
蟋蟀や灯し忘れし外間

同人

紫山

芋兵衛

奴閑太

清呵

眠鷗

有年

城南

無庵

城南

芋兵衛

清旭

中里

祐堂

同人

有年

清旭

祐堂

尾角

矢澤

玄關の大衝立や菊の鉢

閉されし艇庫の裏の世かな

コスモスに夕陽たけたる病舎かな

小春緑カナリアの籠ならべあり

夜寒さを自動車にて送られし

暮の客を送り夜寒の門を閉づ

拜殿にゆらぐ灯影や落葉風

桑畑や落葉のまゝに鋤かれゆく

鹽州所見

高麗狗の落葉を浴びて居たりけり

灯影して笙の調や小夜時雨

時雨るるや庭燎にゆらぐ松の影

大根積む朝鮮馬の時雨けり

時雨るゝや庭かけたる靱俵

城内へ走り使や霜の穢

吾子も又水滸なりし夕褰かな

水滸や古稀にして尙ほ紡ぐ祖母

牧場柵の柵に沿ひたる枯野道

炭坑へ道岐れたる枯野茶屋

剪り花を下げしめやセル單衣

薰風や谷に臨みて一茶亭

野遊や松原めけて一牧場

バラソルの木の間がくれになりけり

支那馬車を値切る夫婦や春の泥

明か〜と灯る酒幕や吹雪中

(註 酒幕とは朝鮮の居酒屋なり)

葡萄の芽四五尺伸びて夏立ちし

搖籃に幼き夢や宵嵐

葡萄の芽四五尺伸びて夏立ちぬ

雜詠

矢澤尾角